

令和2年9月12日

日めくり 人生を変える言葉の処方箋

樋野 興夫

9 人生いばらの道 されど宴会

がん患者に限らず、いばらの道を歩んでいる人も多いことでしょう。だからこそ、喜びをもって「されど宴会」の時を過ごしましょう。笑いは宴会での大切な「芸」の一つです。

宴会とは、飲んで歌っての大騒ぎのことではありません。助けるだけでなく助けを求める役割を果たし、自分の力の及ばないことは、「なるようになれ」と腹を括り、世間や周りの思惑に左右されず、信じた道を行く坦力のある生活を指します。

自分の苦境すら笑い飛ばす宴会が習慣になれば、簡単にはへこたれないようになります。

2 にもかかわらず、笑う

だれよりも苦しいはずの人が笑うとき、それはひとを慰めます。一緒にいても苦痛ではなくなるのです。苦しみの中にある人が変わるときに、周りの人たちも変わるのです。

笑顔になどなれませんか?もしあなたが「Happiness(幸せ)」を求めるならば、そうでしょう。しかし、「Joy(喜び)」を求めてください。それは、上から与えられる喜び、そしてあなたの内から湧き上がるものです。

本日はお越しいただき、ありがとうございました。

次回は10月10日(土) 無理のない範囲でのご参加をお待ちしております。どうぞよろしく願いいたします。

以下は樋野先生より頂戴し、巣鴨のHPに掲載したものです

岡倉天心記念がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 ニュースレター

内村鑑三(1861-1930)の『代表的日本人』(1894年)、新渡戸稲造(1862-1933)の『武士道』(1900年)、岡倉天心(1863-1913)の『茶の本』(1906年)はともに英語で書かれ、日本の文化・思想を西欧社会に紹介したものである。英語で、日本(人)を深く、広く、丁寧に海外に紹介出来た人物は、この3人ではなからうか!この3人は、「英語力と教養」を備えた明治以降の日本が誇れる人物である。明治時代の3人の「格調高い英語力」と「深い教養」と「高い見識」には驚くばかりである。100年後の現代に生きる我々は、「真の国際人の定義」を再考すべき時であろう。『真の国際人』とは、「賢明な寛容」を持ち、「能力を人の為に使う」人物であり、明治維新以降、「内村鑑三・新渡戸稲造・岡倉天心」は、『真の国際人』のモデルであろう!

『真の国際人』の3カ条

理念:「世界の動向を見極めつつ歴史を通して今をみていく」

使命:『俯瞰的に「人間」を理解し「理念を持って現実に向かい、現実の中に理念を問う人材の育成」

社会貢献:『複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む「具眼の士」の種蒔き』

『真に勇敢なる人は常に沈着である。――吾人はこれを「余裕」と呼ぶ。それは屈託せず、混雑せず、さらに多くをいれる余地ある心である』(新渡戸稲造『武士道』より)。



岡倉天心記念がん哲学・巣鴨カフェ「桜」

代表 山本 ひろみ

gantetu_sakura@yahoo.co.jp

090-8501-0826

<https://sugamo-sakura.com/>

後援: 一般社団法人がん哲学外来

<http://www.gantetsugaku.org/>